

国際協力特別賞

母国に誇りを持って

神奈川県立弥栄高等学校 1年

平川 楓

「日本のこともよく知らないのに、グローバルなんて言うのはどうかと思うよね。」
私の社会科の先生はこう言ったが、私はその言葉を聞いて、
「小学生の頃から日本史勉強してるし、日本の事なら大体分かってるはずだし。」
と心の中で思った。

私は国際科に入学し、国外の事を学ぶ機会が増えた。例えば、第二外国語でスペイン語をネイティブの先生に習ったり、英会話やリスニングの授業があったりして、自分でもグローバルな視点が持てるようになってきたと感じていた。しかし、それが間違いだと気付かされたのは、入学して4ヶ月が経った頃だった。

私達の高校に、オーストラリアの姉妹校から20人の生徒が来校した。1年生の国際科は、リスニングの授業の時間を使って、オーストラリアの生徒達と一対一でコミュニケーションをとるというものを行った。

私はとてもわくわくしながら、その授業に出席した。私のパートナーになったエラは、笑顔がとても可愛い女の子だった。私の下手な英語を一生懸命聞いてくれて、たくさん会話をする事が出来た。彼女はオーストラリアで、日本について学んでいて、日本が大好きだと語っていた。私はそれがとても嬉しく、日本のことについてもっと教えてあげたいなと思った。その時、エラは私にこんな質問をしてきた。

「カエデ、日本の一番の魅力は何？」

私はギクリとした。無難に和食だとでも言おうか。いや、着物や畳だろうか。でも、エラはそんな答えを求めている訳ではないだろう。

「カエデ？聞いてた？」

エラは私を覗き込んだ。

「ごめん。私には分からないや。」

そう答えると、エラは「何で？」というような顔をした。その時私は気付いた。私は日本のことすら全く分かっていないし、知識もない。自分の母国のことについて深く考えたこともない。だから私は日本の魅力を見つけることが出来なかったのだ。ふと、社会科の先生の言葉を思い出し、とても恥ずかしくなった。日本のことも知らない人が世界を語るなんて、日本の恥だと気付かされた。

その夜、私は一つ小さな目標をたてた。これからたくさん日本について勉強をして、自分なりの日本の魅力を見つけ、エラにメールを送ろう、というものだ。今はその目標に向かって日本について調べている途中だ。日本音楽をベースに作られた楽曲を聴いたり、現代社会の勉強をしたり、様々なジャンルに目を向けている。

調べている中で、私は食文化に興味を持った。昔から大好きな和食の魅力に最近、あらためて気付かされた。なので私はジャンルをしぼって、もっと掘り下げたら、エラに食文化についてのメールを送ろうかと考えている。そんな事をしているうちに、私は将来、海外で日本文化を紹介したいという夢を持つようになった。元々教師志望だったので、海外の日本語教師等の仕事も視野に入れている。

これからの世界はどんどんグローバル化が進み、違う言語を話す人々と触れ合う機会が増えるだろう。そんな時、まずは自分の母国に誇りを持って、人々に母国について語れることが、お互いを知り、仲良くなるために重要な架け橋になると、私は思う。たくさんの方が日本を知ってくれば、自然に他国の情報も入ってくるだろう。それぞれの自己アピールがあつてこそ、お互いの国を知ることができる。全ての国が、他の全ての国のことを知ることができれば、世界が一つにまとまると思いませんか。なので私は日本という国を海外で紹介し、知ってもらいたい。そんな、世界と日本の架け橋に私はなりたい。